

ウクライナ、パレスチナ、極東・・・国際情勢を

左右する世界の<軍事>の全貌、「今」がこの一冊に！

<軍事>を知ることで「平和国家日本」の守り方を考える 『地図でスッと頭に入る世界の軍事情勢』11/17 発売

～世界の紛争、日本の防衛力、各国の軍事力、軍事の基礎知識の4章立てで最新の<軍事>を紐解く～

株式会社昭文社ホールディングス（本社：千代田区麹町、代表取締役社長 黒田茂夫、東証コード：9475）とその子会社である株式会社昭文社（本社：千代田区麹町、代表取締役 川村哲也、以下昭文社）は、日本の喫緊の課題をわかりやすく図解で紐解く人気シリーズ「スッと頭に入る」テーマ編の最新刊『地図でスッと頭に入る世界の軍事情勢』を2023年11月17日より発売することをお知らせいたします。

)) 本書の企画背景・主題 ((

東西冷戦時代、核を持つ超大国がその圧倒的軍事力を背景に各地で代理戦争を繰り広げました。地域紛争やクーデターが世界各地で起き、国連軍や多国籍軍、平和維持部隊が派遣され、軍事力を行使、あるいは睨みを利かせ相手の攻撃を抑止しました。

しかし、現代においてはテクノロジー・兵器の発達と新たな大国の出現により、各国の安保戦略や軍事情勢が以前とは全く異なる様相を呈しています。

21世紀、経済発展をテコに中国が海軍力を高め、海洋進出を強化したことにより、アメリカとの対立が激化。かつての超大国ロシアは、ウクライナ侵攻で国際的失墜を示す一方、NATOが存在感を高めました。そしてQUAD（日米豪印戦略対話）、SCO（上海協力機構）など、勢いを増す地域大国を含めた安全保障の枠組みの重要性が高まっています。

ロシアの戦車がスティンガーやジャベリンで破壊され、ドローンが偵察、攻撃の主役となる今、<軍事力>の定義は一新されました。台湾有事や北朝鮮のミサイル問題を抱える日本も、そうした潮流の一大変化に無縁ではられません。

本書は、定評ある地図と図版で最新の軍事情勢をビジュアルに解説。世界の紛争、抗争地から日本の防衛力の分析、世界の国々の軍事力比較、軍事の基礎知識まで、最新トレンドを押さえた内容で「今知りたい軍事の基本」を過不足なく紹介しています。

明日の日本を守るためにも必読の知識が「スッと頭に」入ってくる一冊です。



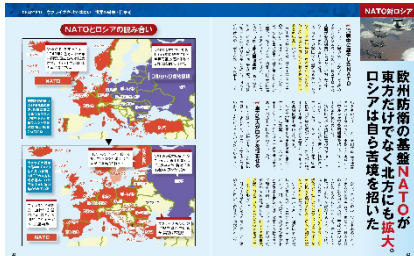
<表紙>



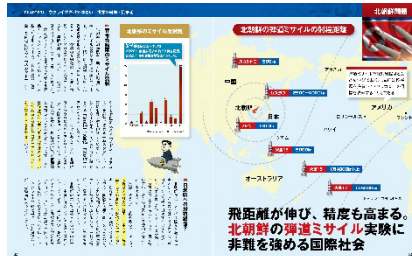
<代表誌面>

)) 誌面例&注目記事 ((

|| 誌面例



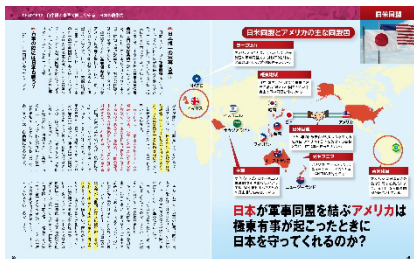
<NATO 対ロシア>



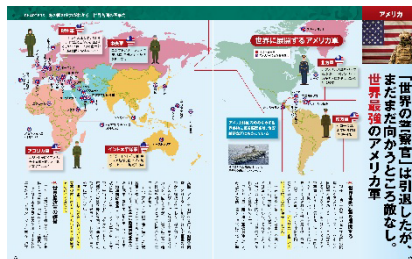
<北朝鮮問題>



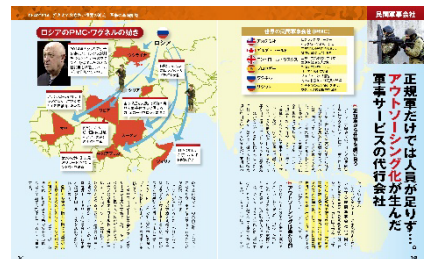
<イラン問題>



<日米同盟>



<世界に展開するアメリカ軍>



<民間軍事会社>

|| 注目記事

◆飛距離が伸び、精度も高まる。北朝鮮の弾道ミサイル実験に非難を強める国際社会

北朝鮮のミサイル開発が急速に進展し、2022年以降、発射実験回数が激増している。ミサイルだけでなく、小型弾頭開発や核開発も進めているとみられる。ウクライナ問題を機にロシアと関係を深める北朝鮮に、日米韓を始め国際社会はどう対処するのか？

◆和はまだまだ遠い…。「悪の枢軸」と呼ばれたイランを警戒する中東諸国

「世界の火薬庫」といわれる中東、その中でも革命を輸出しテロリストを支援するイランは、アメリカと激しく対立。アメリカはイランを「悪の枢軸」と呼び、経済制裁を課してきた。イスラエルとイスラム諸国の国交が樹立される中、パレスチナのイスラム組織ハマスを支援するイランが今後どう動くか？

◆日本が軍事同盟を結ぶアメリカは極東有事が起こったときに日本を守ってくれるのか？

日本唯一の軍事同盟国アメリカ。日米安保条約はいまや極東のみならずインド太平洋地域の平和維持の中核とされる。中国が台湾、南沙諸島を領土とする「十段線」地図を公表、覇権主義的な対外膨張政策を志向する中、実際に極東有事となったそのとき、果たしてアメリカは参戦するのか？

◆正規軍だけでは人員が足りず…。アウトソーシング化が生んだ軍事サービスの代行会社

ウクライナ紛争とその後のプリゴジン氏の反乱、墜落死により、幾度となくクローズアップされたロシアの民間軍事会社ワグネル。こうした会社のルーツは第二次大戦後のアメリカにあった。近年は利益追求型会社が出現。利権や資源を獲得し、存在感を増す各国の民間軍事会社を詳しく解説。

)) 主な構成 (目次より) ((

- || INTRODUCTION 今がわかる！ 地図で見る世界の軍事情勢
- || CHAPTER1 ウクライナだけではない 世界の紛争・抗争地
- || CHAPTER2 自衛隊と米軍で国土を守る 日本の防衛力
- || CHAPTER3 あの国の実力がわかる 世界各国の軍事力
- || CHAPTER4 押さえておきたい世界の潮流 軍事の基礎知識
- || COLUMN 「地政学とは何か？」「なぜ、国連は戦争を防げないのか？」「日本の兵役」「各国の特殊部隊」

)) 監修者プロフィール ((

|| 齋木伸生 (さいき・のぶお)

1960年東京生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業、早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了、同博士課程修了。国際条約史論専修。経済学士。法学修士。外交史と安全保障を研究、ソ連・フィンランド関係とフィンランドの安全保障政策が専門。軍事評論家としても活動中。

主な著書に『ドイツ戦車発達史』(光人社)、『フィンランド軍入門』『世界の海戦史』(イカロス出版)、『軍艦の秘密』(PHP研究所)などがある。

月刊誌『軍事研究』(ジャパン・ミリタリー・レビュー)にも寄稿している。

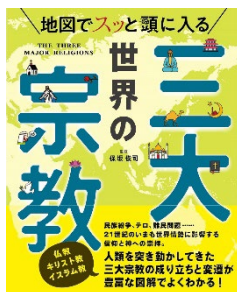
)) 商品概要 ((

- 商品名 : 『地図でスツと頭に入る世界の軍事情勢』
体裁・頁数 : B5変判、本体144頁
発売日 : 2023年11月17日
 全国の主要書店で販売
定価 : 各1,760円(本体1,600円+税10%)
出版社 : 株式会社 昭文社

【参考情報】

)) シリーズ既刊 ((

世界的なトピックス、国際情勢、歴史や文化を紐解いた「スツと頭に入る」のテーマ編。



<世界の三大宗教>



<世界の民族と紛争>



<世界の三大穀物>



<世界の資源と争奪戦>